

第1回 名古屋港長期構想検討委員会

議 事 要 旨

1 日時 令和7年1月27日（月）13：00～15：00

2 場所 名古屋港湾会館 第1会議室（WEB併用）

3 議題

- ・名古屋港長期構想の策定について
- ・目指す方向性について

4 主な議事

- ・長期構想検討委員会の委員長に大脇委員が選出された。
- ・委員長より、関係行政機関会議の座長に秀島委員が指名された。
- ・事務局から、資料1「名古屋港長期構想の策定について」を説明し、その内容が確認された。
- ・事務局から、資料2「目指す方向性について」を説明し、委員全員から意見を頂いた。

5 委員からの主な意見

（論理展開・着眼点）

- ・資料2は良くまとまっている。資料の構成、内容については、理解できる内容であり賛同したい。特に「目指す方向性の検討」について、組み立て方について共感する。
- ・2050年のどうなるかわからない状況に対して、バックキャスティングで検討するので、名古屋港は上手くいっているのが今のままでいいのではないかと、ではなく、少し挑戦的な内容になって欲しいと思う。
- ・船が大きくなっていくことを考えると、今の名古屋港は手狭で、沖合への発展なども考えるといいと思う。河川や漁業の関係等で難しいこともあるかもしれないが、難しいからやらないということではなく、そのようなことも見据えて関係者といろいろ協議していくのが大事だと思う。

- ・将来像の考え方、この3つはいいテーマの出し方だと思う。名古屋港を利用する人の目線とその価値を高める視点で組み立てるとするのは非常にいいと思った。ベクトルが違う方向でそれぞれ何をしたらいいか考えやすいものとなっており期待している。
- ・カーボンニュートラルや防災の強靱を高めないといけない大きなテーマを織り込み、既存の構想に対して健全な、順当な発展形として描かれており、賛同できる内容である。
- ・リサイクルの視点も必要ではないか。
- ・海を豊かにする、という視点も考えていくと良い。
- ・国の政策の方向性も踏まえて検討してほしい。

(名古屋港の位置づけ)

- ・京浜・阪神のリダンダンシーの観点から、有事の際、東西の中間にある立地条件を生かし、京浜や阪神が被災した時に補完的な役割が担えるような港湾にしていく必要がある。
- ・名古屋港はこの地域の発展を支え、加えて日本の発展に貢献する港であってほしい。国土の抱える課題がこれから転換していく局面で、名古屋港が重要な役割を担って行く、つまり東京一極集中の是正を推進すべき名古屋港であるという捉え方を将来の姿としてバックキャストिंगすることが望ましいのではないか。
- ・中部の地域の維持だけではなく、日本のために貢献する地域となるために何をすべきか、という視点が必要かと思う。
- ・地域の企業にとって名古屋港の発展は不可欠で、20年30年、もっと先も含めて名古屋港自体が事業継続できていることが最低限のラインかと思う。昨今、社会課題であるカーボンニュートラルや、労働力不足への対応は避けられないし、周辺、日本全国の課題に対しても貢献できるというのが名古屋港に求められる、あるいは名古屋港ができることだと思う。
- ・20年、30年後を見た場合、今後、電動垂直離着陸機、リニア中央新幹線の開通などに伴って、名古屋港の範囲だけでなく、伊勢湾、三河湾全部ひっくるめた広義の名古屋港という視点も必要だと思う。
- ・経済圏をアジア一体と捉え、アジアの成長を名古屋港に取り込んでいくことが必要である。

(選ばれ続ける港)

- ・一番大事なのは、名古屋港が世界から選ばれる港であることであり、そのためには、効率的で使いやすいだけでなく、高度な機能を備える、あらゆる意味で強い港を目指すべき。
- ・このエリアは日本の物流にとって一番重要なところであり、「物流首都」という宣言を出すべきだと思う。
- ・名古屋港が発展するためには、船社に寄港してもらう港、エンドユーザー（受け荷主）にとっても便利な名古屋港であるべき。そのためには、インセンティブが必要である。
- ・企業の国際競争力を高めるため、様々な船社が寄港し、色々な選択肢があることが重要である。

(カーボンニュートラル)

- ・カーボンニュートラルの実現に向けて、2030年、2040年のマイルストーンを置いて、時間軸のステップをしっかりと描くことが重要ではないか。
- ・利用企業のサプライチェーンを考えるなかで重要な要素を担うのが、カーボンニュートラルポート（CNP）を中心とした脱炭素である。名古屋港の脱炭素の取組を進め、国のCNP認証制度の活用などで世界にアピールすることは、中部圏全域の産業のPRに繋がることから非常に大事である。

(先進的な取組)

- ・新しい取組も積極的に取り入れる姿勢は素晴らしい。名古屋港では、新しい技術を実験し成果が出せる場所であるイメージづくりも大事である。
- ・港湾法等の制約で難しいかもしれないが、港に自由な機能が作れるということが出来れば、お客さんのニーズに対応でき、新しい技術や産業が積極的に集まってくるのではないか。
- ・名古屋港では遠隔化や電子化がかなり進んでおり、更なる効率化に向けた取組を進め生産性の向上を図ってほしい。人口減少や2024年問題に対応するため、自動運転の導入やRORO船、フェリーの拡充の検討も必要である。

(成長産業)

- ・成長性の観点では、ドローンの主要メーカーやロボットなど、将来的に自動車産業を補完するような成長産業も立地している。

- ・自動車や輸送機械の一本柱ではなく、次の柱として、空飛ぶクルマやドローンなど、次世代モビリティを名古屋港と結び付けると他にはない独自性を押し出せる。

(強靱化)

- ・安全な港、災害に対して影響を小さくできる港とアピールすることは、港湾立地企業の活動にもつながる。協働防護にむけて、港湾と民間企業が一緒になって港づくりする考え方も大事ではないか。
- ・事業計画を考えるうえで、BCPの強靱性を高めていく必要がある。何があっても使い続けられる、早期に復旧できることはもちろん大事だが、名古屋港で働く人の安全安心が常に確保されていることは避けられない。
- ・臨海部の災害の予防対策の再点検や災害廃棄物の処理計画など、BCPの重要性の再認識も大事ではないか。

(親しまれる港)

- ・港には色が必要である。港を広域に捉え、一体的なまちづくりとして発展的に考えて欲しい。
- ・産業港のイメージが強いので、港でロマンを感じられるような港づくりができると観光客を寄せられる。
- ・地元にも愛される名古屋港を前面に出すことも必要だと思う。
- ・クルーズ対応の強化や港湾緑地の整備なども検討して頂きたい。
- ・港に誇りをもってもらうために、賑わいやウォーターフロントの機能を持つておくことは大事である。

(空間利用)

- ・デジタルツインなどの情報通信技術の活用により効率化を図ることで、港をいかに高度に使っていくかが重要である。
- ・脱炭素化を考える中で、ポートアイランドが中心的な課題になるが、それ以外のエリアも含めてどうするかを考えなければならない。パイプラインを敷設する用地の確保についても、あらかじめ残余地を考えておかなければならない。
- ・海外からの大規模な次世代エネルギーの受入拠点について、ポートアイランドの活用だけでなく、踊り場を設け、どの様に全体を変えていくか、官民が連携

して絵を描かなければならないと思う。

- ・名古屋港には5つのターミナルがあるが、既に相当古くなっているものもあるため、今の機能を維持しながら、ターミナルの再構築を行っていかねばならない。現状では、他のターミナルと融通しながら整備することが考えられるが、今後貨物が増えると難しくなる。
- ・名古屋港のターミナルは、自動化やNUTS、集中管理ゲートなど、優れた近代的なターミナルである一方で、古い荷役体制や不合理なターミナルも混在している。長期構想という長い目を見たとき、ある程度、まとまった近代的なターミナル群を揃える必要もある。

(ポートアイランド)

- ・ポートアイランドは利用価値が高く、現時点では機能を限定せずに検討を進める姿勢が重要である。
- ・カーボンニュートラルポートを目指す上でも、ポートアイランドを次世代エネルギーのハブに活用できれば、意義のある土地の活用になると思う。
- ・ポートアイランドに物流機能を持たせたらどうなるのか、費用や期間などを検討したい。

(情報発信)

- ・企業のサステナビリティに関する情報開示が求められる中、企業と一緒にあって港の安全性を示すことで、港湾の立地企業は、投資家や世の中に港の安全性を発信することができる。
- ・日本を支える物流拠点としての重要性を感じてもらえるような情報発信の仕方が大事であり、長期構想を発信の面でも活用していけると良い。
- ・名古屋港だからできること、何かショーケースのようなものをつくることも大切な要素ではないか。

(実現性)

- ・長期構想の目標である20～30年後はリニアが名古屋まで開通していることが想定される。既存の枠組みの発展だけでなく、リニアを契機とした中部・東海を新たにどうデザインしていくかが問われている。
- ・目指すゴールの社会情勢がどうなっているのか、また、現状の課題の整理があれば、実現可能性がより説得的になる。

- ・名古屋港は、伊勢湾の港湾や空港と連携して、地域の国際競争力や産業競争力の強化を支えていく視点が重要ではないか。
- ・貨物の動向は横ばい、もしくは伸び悩みに見え、この先内発的に発展していくポテンシャルはそうは高くないと見て、名古屋港の経営を考えるべきではないか。また、長期構想で取り扱うかは別として、名古屋港の経営の枠組みを考え直していく時期ではないか。
- ・施策を推進するための下支えとして、迅速に意思決定ができるような体制、組織づくりの視点も必要である。

以上